

学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">荒木 夏乃</p> <p style="text-align: center;">【比較社会文化学専攻 平成24年度生】</p>	要 旨
論文題目	和辻倫理学における個性としての肉体の重要性 -自然児の恋愛をてがかりに-	<p>本論文は、今までにない視点から和辻哲郎の思想を読み解く独創的な研究である。一般的に和辻哲郎は、個人よりも国家の全体性に肩入れしたと考えられているが、本論文は「個性」「肉体」「恋愛」「情死」といった従来見落とされがちだった主題に着目することで、和辻哲郎の異なる側面に光を当てている。間柄を固定的に捉え、社会全体の中での役割に個人を埋没させるのではなく、全体性や社会通念に反する傾向をはらみ、しかも肉体に基礎を置いた人間関係が、重要な位置を占めていることを明らかにした。たとえば和辻哲郎が婚姻に関して、ヘーゲルに依拠しつつもヘーゲル以上に「恋愛」を特権視し、しかもそこで「肉体」の重要性を強調しているというのは、新しい和辻理解をもたらす指摘である。また『古事記』のスサノオをモデルとした「自然児」解釈や浄瑠璃における「情死」論において、和辻が社会の一般的な倫理的通念から逸脱するような振る舞いを肯定的に捉えているということも、本論文が明らかにした重要な論点である。さらに和辻哲郎の古代文化に関する諸著作を分析する軸として、個別的、直接的な宗教心を捉える神話的視点と、より社会的、制度的な宗教のあり方に関わる神代史的視点を区別しながら一貫した解釈を取り出そうとしている。このように本論文は、社会哲学や倫理学として和辻哲郎の思想を把握しようとする際には往々にして軽視されがちであったテーマにこだわり、和辻哲郎の思想についての新しい見方を提示している。最後に、本論文のもう一つユニークな点は、私人、一個人としての和辻哲郎の振る舞いに注目することからも、上記のような解釈の裏付けを与える可能性を示している点にある。つまり妻の不倫に際してとった態度に関する和辻自身の書簡や当事者たちの証言を通じて、実際の生活においても和辻が肉体を通じた恋愛や個性を重んじていた人物だったことが示された。こうしたアプローチは従来の思想史的研究手法からは出てきにくいものであり、高く評価されてよい点である。</p>
審査委員	(主査) 准教授 中野 裕考	
	准教授 三浦 謙	
	助教 宮下 聡子	
	准教授 谷口 幸代	
	教授 頼住 光子	